東日本大震災に思う

3月11日（金）午後2時46分ごろ、東北から関東まで広い地域でマグニチュード9・0の巨大地震があった。地震・大津波・原発の力で人間の生活が一瞬にして崩壊してしまった。私の南浜中央病院も大津波によって1階の部分が全壊し放射線室も汚泥と瓦礫で装置を見つけ出す事も大変でした。1階の診療棟にはベット、ワゴン車、松の大木や汚泥が10センチあって歩けませんでした。歯科・外来のカルテは1枚も残らず流されました。また病棟でもカルテは勿論ですが、薬剤をはじめ全滅状態でした。幸いにして、1階に入院されていた患者さん（100名中70名は寝たっきり）を大津波が来る30分前に2階に移動し、一人の犠牲者も出す事もなく避難できたことが、南浜中央病院の底力かなと思えてなりません。

入院患者さん200名を、ガス・水道・電気がない所で治療を続けることが出来ないの

で、3日ほどは岩沼市勤労者体育館へ移動して治療を続けましたが、近郊の医療機関や岩手、福島、山形の病院に一時お願いすることが出来ました。

地震発生後は3～4回ほど病院へ、片付けや清掃を兼ねて、また病院の再建に対する説明会、再建までの1年間をどうするのか、病院は1年間休職扱いをする。その中で再就職休職、退職に追い詰められてしまった職員が大多数でした。

今後は地震・大津波に強い環境づくりが求められています。日本のエネルギー政策を原子力発電にたよらないECに優しい、人間にも優しく、自然環境を大切に出来て、人と人の絆を大切にする世の中を求めていると思う

今日のニュースによると県内医療施設186カ所被災、震災で9人の医師が犠牲になり111施設は津波で、地震による75施設。医療機器などの被害51施設でMRI・24 2施設でエックス線装置・廃業7施設があり

ました。この調査を見ても大変な被害でしたが地域医療を荒廃させることなく、絆を持って医療の過疎と言われた地域の医療を守りたい。最後に原発の問題も国民の大きな関心ごとです、是非早い時期に放射線展での医療被曝相談会のような企画を検討して戴ければ幸いです。

平成23年5月24日

南浜中央病院放射線室　髙木　久

20×20